イボイノシシ Phacochoerus Aethiopicus

モユク☆カムイ NO.89

●モユク・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。 April 2016

ASAHIYAMAZOONEWS
あさひやまどうぶつえんニュース

もくじ

ぼくは動物大使 その50
アフリカの大地を駆ける!
〜イボイノシシ……1.2

特集、きりん舎・かば館徹底解剖……3.4

飼育研究レポート
キジバトの人工孵化・育雛……5

海外ZOO探訪記
〜香港海洋公園:2014年9月〜……6

主なできごと・雪あかりの動物園 無事終了!
編集後記・飼育動物数……7

ぼくは動物大使 その50
アフリカの大地を駆ける ～イボイノシシ～

イボイノシシ

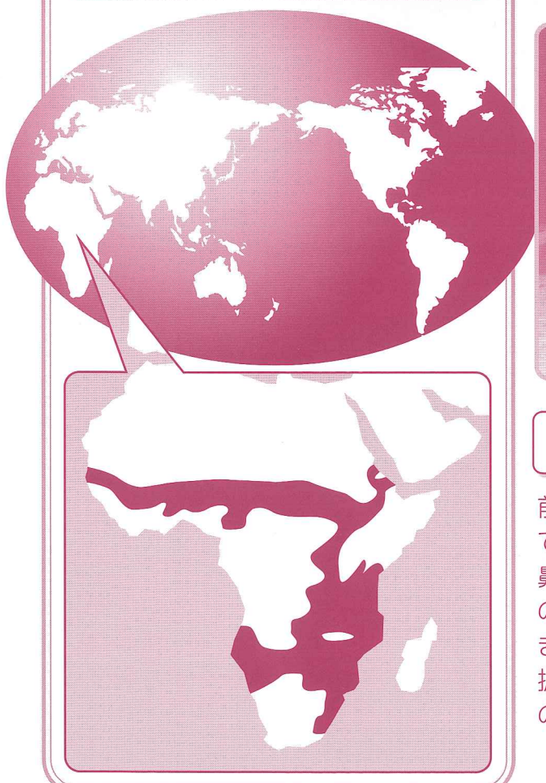
Phacochoerus aethiopicus
偶蹄(ウシ)目　イノシシ科

アフリカ大陸のサハラ砂漠以南、サバンナ(草原)に生息する。1頭のメスと2才までの子供達で群れを形成する。繁殖の時のみオスは群れに加わる。

巣穴で出産し、子供は2-6頭生まれ、母親だけで子育てを行う。

寿命は、野生下で約15才である。日本国内では飼育例は少なく、飼育下での平均寿命は不明。天敵は、ライオンやヒョウなど。

分　布



体

頭胴長　オス 125-150cm
　　メス 105-140cm
体　重　オス 約100kg
　　メス 約60kg

食性

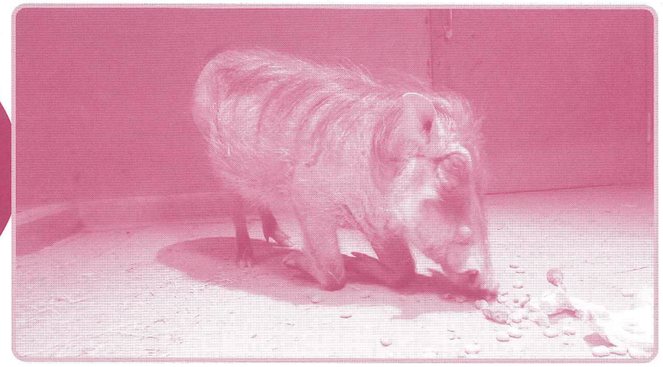
草・葉・種子など基本的に草食だが、昆虫や小動物を食べることもある。動物園ではサツマイモ・ニンジン・リンゴ・クマ用ペレットなどを与えている。

犬歯

上顎の犬歯が上に曲がって伸びることにより、特徴的な牙になる。

イボ

目の下と牙の後ろに2対のイボがあり、名前の由来になっている。闘争の時に体を守る役割があると考えられている。



餌の食べ方

前足を折り曲げて、膝をついて地面の餌を食べる。丈夫な鼻や前足で地面を掘って、木の根や球根を食べることもできる。動物園でもよく地面を掘っているので、展示スペースの床は穴だらけに…。

旭山動物園のイボイノシシ

愛称 ドゥニア ♂
2015年2月3日生まれ 1才

ドゥニアはまだ子供です。
牙もイボもこれから大きくなります。

ニホンイノシシとの違い

ニホンイノシシに比べ、体毛は薄く首から背中にかけてたてがみが生え、足も長い。ニホンイノシシの子供は独特の毛色をした「うりぼう」だが、イボイノシシの子供は親と同じ毛色。

逃げ足

野生ではライオンなどに襲われることもあるので逃げ足が速く、時速50kmで走ることができる。警戒すると尾をあげて、仲間に合図する。

イボイノシシがやってきた！

2015年9月にアメリカの動物園から、イボイノシシの「ドゥニア」が来園しました。旭山動物園でイボイノシシを飼育するのは初めてのことであり、国内の他の動物園でも飼育しているところは静岡県の富士サファリパークだけです。事前に情報は得ていたものの、飼育係も初めて見るイボイノシシにどきどきでした。第一印象は「小さい！」(まだ生後半年の子供です。あたりまえ)。神経質な性格と思っていましたが、ドゥニアは来園翌日から餌もよく食べ、飼育担当者にじゃれついてきて、すぐに新しい環境に慣れてくれました。これは性格なのでしょうか？　展示スペースに移動してからも、お客様におびえる様子もなく、穴を掘ったりと元気に暮らしています。今後はお嫁さんを迎えて、繁殖を目指していきたいと考えています。

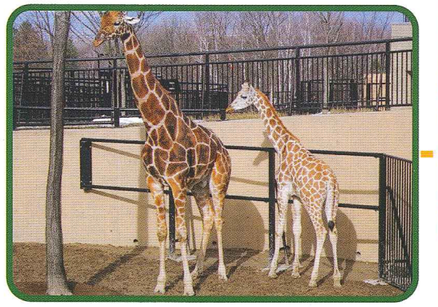
特集

きりん舎・かば館徹底解剖！

2013年にオープンした「きりん舎・かば館」は、老朽化した総合動物舎にかわり新しく建設された施設です。アミメキリンやカバ、ダチョウ、モモイロペリカン、ホロホロチョウ、そして新たな仲間のイボイノシシが過ごすこの動物舎を徹底解剖します。

キリン放飼場

不思議な形状の放飼場ですが、以前と比べ敷地は倍になり、地面は全て平らになりました。キリンの歩幅が広くなり本来の歩く姿になったような…。走る姿は、とても迫力があり見物です。



多目的部屋

ペリカンやホロホロチョウが越冬するための部屋があります（非公開）。

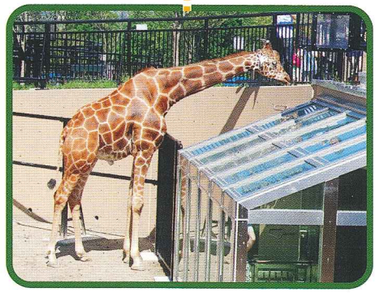
キリン寝室

寝室は全部で3部屋（非公開）。「ゲンキ」と「結（ゆい）」は、それぞれ別々の部屋で夜を過ごします。赤ちゃんが生まれたら親子でゆったり過ごせる大きな部屋もあります。

観察テラス

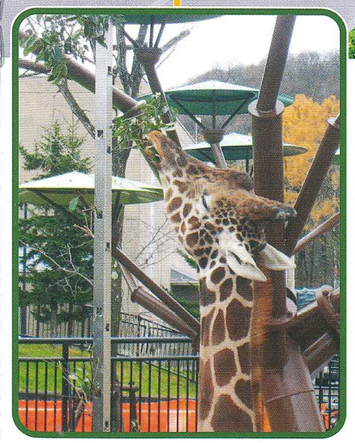
キリンと同じ地面の高さからガラス一枚で観察することができます。蹄を間近に観察できます。また、この上にはエサ箱があり、食べている姿を下から見られます。キリンの大きさが最も感じられる場所です。

ペリカン放飼場
※夏期のみ



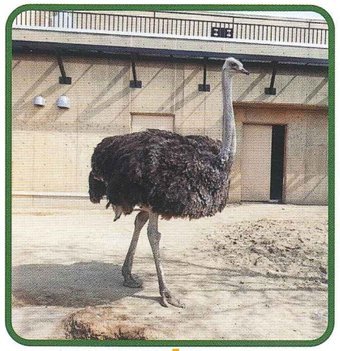
枝つけマシーン

木の枝を挿せる棒があり、木の葉を食べる行動を観察できます。オスは高いところ、メスはその下、子どもはそのまた下に茂る葉を食べるというキリンの習性が見られます。



イボイノシシ放飼場
※夏期のみ

ダチョウ放飼場



ダチョウ・イボイノシシ屋内放飼場・寝室

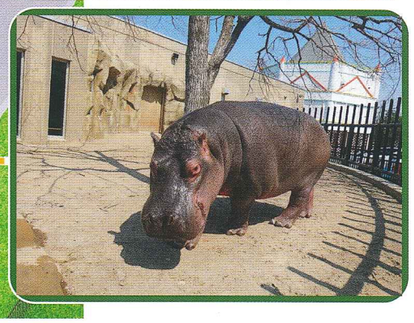
ダチョウは奥のスペース、イボイノシシは手前の通路が放飼場となっています。ダチョウの大きさを感じ、イボイノシシの走る姿を間近で観察できます。

カバ寝室

「百吉（ももきち）」と「旭子（あさこ）」のそれぞれの部屋、そして将来の繁殖のための大きな部屋のあわせて3つの寝室があります（非公開）。

カバ屋内放飼場

深さ約3mのプールがあり、さまざまな角度からカバを観察できます。真下からお腹を見ることも。ここからカバを見れば、カバのイメージがきっと変わります。



カバ外放飼場

以前のカバ舎はコンクリート床でしたが、全面土の放飼場になっています。冬はロードヒーティングにしてあるので、この上で気持ちよく寝ていることも…

横を切り抜いてみると…

観察テラスへは、かば館に入ると行くことができます。また、アフリカのゴキブリなど通称「ゲテモノ」水槽がたくさんありますよ。

飼育研究レポート

キジバトの人工孵化・育雛

少し前の話になりますが、2011年に日本動物園水族館協会からキジバトの人工孵化・育雛（孵卵器などで卵を孵化させ、人の手で育て上げる）で繁殖賞をいただきました。繁殖賞とは、ある動物の繁殖に国内で初めて成功した動物園・水族館に対して授与される賞です。今回はそのときの話をレポートします。

キジバトの人工孵化・育雛を始めたきっかけは、ずばり…キジバトをたくさん飼育していたから(笑)。当時、北海道産動物舎の担当者になったばかりの私は、なにか動物たちの繁殖に力を注ぎたい、そんなやる気満々の状態で目をつけたのがキジバトでした。調べてみると、過去に日本の動物園でキジバトの人工孵化・育雛の記録はない…「これはいい！」と、2008年よりこの研究を始めました。その後、とても辛い経験になるとも知らずに…。

さて、人工孵化・育雛を始めようとしても、私には経験がまったくありませんでした。さらに、ハトはヒナをピジョンミルクと呼ばれる分泌物で育てます。参考資料も少なく、手探り状態のまま始めることになりました。生まれてくるヒナの体重は10g程度。指の太い私は、悪戦苦闘しながら一生懸命ヒナを育てました。しかし、全くうまくいきません。ヒナを3日以上、生かすことが出来なかったのです。

思い悩んでいた矢先、上野動物園でアカガシラカラスバトの人工孵化・育雛が行われていることを知りました。緊張しながら電話をすると、担当者の方は与えている餌や給餌器などについて親切・丁寧に教えてくれました。私は「よし、これで大丈夫だ！」とウキウキしながら再び卵を温めてヒナを孵し、育雛を始めましました。

しかし、教えてもらった方法でも、ヒナを5日以上、生かすことが出来ませんでした。同じハトの仲間とはいえ、キジバトに全く同じ方法で行っても、うまくいかなかったのです。そこで、なにが足りないかを考え、育雛方法を改良していきました。まず、ヒナを持ち帰って自宅でも給餌を行い、1日の給餌回数を増やしました。さらに、餌にゆで卵の黄身を混ぜ、餌の栄養価を高めることにしました。こ

小さなキジバトのヒナと太い指

の結果、2011年6月生まれのヒナが順調に育ち、繁殖賞受賞の条件である半年間以上の成育に成功しました。

この年は、計300日ほどヒナに付きっきりの毎日となりました。本当に大変で、辛い思い出しかありませんが、この研究はかけがえのない経験となりました。しかし、まだまだ課題は山積みです。現在はキジバトの担当を外れましたが、いつか人工孵化・育雛技術の確立を目指し、再び取り組みたいと思っています。

キジバトは普通種で、絶滅の危機に瀕している動物ではありません。しかし、リョコウバトという推定50億羽以上生息していたハトを人間は乱獲などにより絶滅させてしまいました。当然、今の時代にそのようなことが起こる可能性はとても低いです。ですが、キジバトが絶対に絶滅しないとも言い切ることは出来ません。この研究は、キジバトたちに緊急事態が起こった際の助けになるかもしれません。

動物園の役割は、野生生物たちと一緒に生きていく社会を作ることと、さらに、動物たちに緊急事態が起こったときのための技術を積み上げておくことにあります。この技術が必要となる未来がこないように、そして、もしきてしまった時のために、これからも動物園に出来ることを精一杯やっていきたいと思います。

（ニホンザル・ゴマフアザラシ担当　鈴木悠太）

海外ZOO探訪記

香港海洋公園・2014年9月

2014年9月に開催された国際動物園教育担当者会議に参加してきました。会議については、また別の機会として、この会議のホストであった香港海洋公園について紹介します。

香港海洋公園は、1977年に開設された動物園・水族館・遊園地が併設する複合施設です。敷地面積は91万平方mで、これは旭山動物園の約6倍にもなります。2013年度の入園者数は、なんと約750万人！近年では、遊園地アトラクションから動物展示施設など、様々な施設が続々とオープンしています。とにかく広大な園内には、ジャイアントパンダに、キンカジューに、イルカに、マンタなどなどなど…動物展示施設がたくさん！中でも、ジェンツーペンギンなど極地動物の飼育展示施設である「Polar Adventure」が、私のオススメです。極地の気温と日照を再現する空調と照明が完備され、人工雪の中を楽しそうにはしゃぐペンギンたちを観察できます。ここで涼むこともできますよ（図1）。2014年訪問時には地下鉄駅が建設中で、こちらは今年開業予定。アジア随一の観光地・香港において、今でも進化し続ける一大観光スポットと言っていいでしょう。

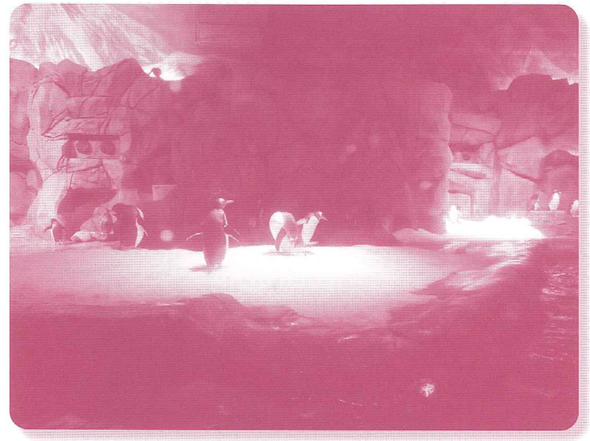


図1.ペンギンなどの展示施設 Polar Adventure

とはいえ、単なる観光地というわけではなく、動物園水族館として野生動物保全に関する教育活動や研究活動にも大変熱心です。教育活動は、専門のトレーニングを受けた60名以上（！）のスタッフによって組織的・理論的に展開されています。その何人かと会議を通して友人になりましたが、その誰もが野生動物保全に対し、アツいアツい情熱を持っています。

園内各所では、来園者に対して Animal Fun TalkやTrainer's Talkといった、旭山で言うなら「なるほどガイド」のような教育イベントがひっきりなしに実施されています。これらを全て制覇しようとするなら2, 3日以上の滞在が絶対に必要です！ 訪問時は、できる限りこれらのイベントを見学しようとしましたが、1日かけて園内を行ったり来たりして見ることができたのは、たった5つのトークとアシカのショーだけ…でも、そのどれもが解説には必ず野生動物保全についてのメッセージを含めていました。例えば、Panda Villageで開催

図2.カワウソの Trainer`s Talk の様子

されていたカワウソのTrainer's Talkでは、カワウソと来園者が握手し、その来園者は水辺の環境を守ることをカワウソと約束するというアクティビティが行われていました（図2）。動物の姿や行動を単なるエンターテイメントとして供覧するのではなく、来園者に野生動物保全について楽しみながら学んでもらおうという香港海洋公園の姿勢は、大変勉強になりました。

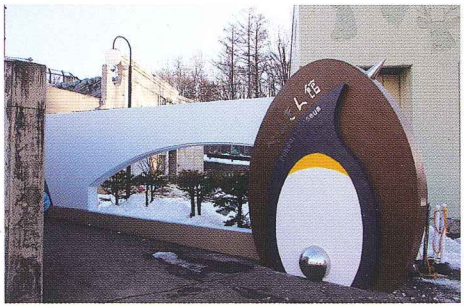
もっと紹介したいことがあるのですが、ここの魅力を伝えるには、この紙面ではあまりにも短い！でも、「百聞は一見にしかず」です。香港にお立ち寄りの際は、ぜひこちらにも足を伸ばしてみてください。

（インドクジャク・教育活動担当　奥山英登）

主なできごと《2015～2016年》

12月9日　エミュー　愛媛県とべ動物園へ搬出
10日　ダチョウ♂が山口県秋吉台自然動物公園サファリランドより来園

14日　旭川建設業協会さまより、ぺんぎん館のモニュメント寄贈



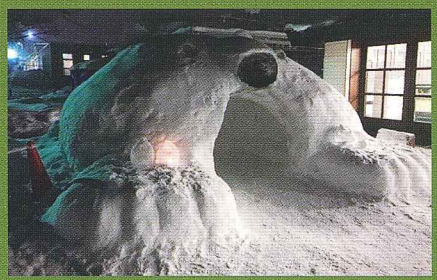
16日　エゾシカ♀・清野　死亡
18日　飼育勉強会
22日　ホッキョクグマ・ルル展示再開
23日　ペンギンの散歩開始
25-27日　親子で紙芝居!あざらし教室 with iPad 開催
27日　ぺんぎん館トボガン広場開設
30・31日　年末年始休園
《2016年》
1月1日　年末年始休園
1月2日　ホッキョクグマ・サツキ展示再開
19日　飼育勉強会
30日　企画展「冬の動物たちの写真展」開催（4月7日まで）

2月1日　飼育勉強会
6-11日　雪あかりの動物園
24日　飼育勉強会

雪あかりの動物園　無事終了！

今回で4回目を迎えた「雪あかりの動物園」は、吹雪や強風に見舞われながらも盛況の内に無事終えることができました。始めた頃に比べると少しずつですが、私たち職員も含め、来園者の皆さまにも定着してきたのかなと感じます。今年は、キャンドルのほかにスタッフで作ったホッキョクグマのかまくらや滑り台なども増え、旭山動物園らしい手作り感がこれまでよりも感じられたのではないでしょうか。まだまだ発展途上な冬のイベントですが、これからの雪あかりの動物園に乞うご期待!!

雪あかりの動物園の様子



初登場のホッキョクグマのかまくら

編集後記

気候変動の影響なのか、今年も2月中旬にまさかのプラスの気温となり季節外れの雨も降りました。そしてまた、外国人の来園者の方も年々増えていることを改めて感じた冬期開園でした。

どんどんグローバル化していく社会の中で動物園としてどのような事ができるのか?ということが、私たちにとって今後の重要な課題であると思います。

さて、夏期開園から何かが変わっていくのかな??

（大内）

モユク・カムイ No.89 平成28年4月1日

●発 行 所／旭川市旭山動物園 〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104
●発　　行／坂東　元 ●表紙絵:中田　真一
●編　　集／丸　一喜・高橋　伸広・大内　章広・鈴木　悠太・奥山　英登
　　中村　亮平・佐賀　真一
●印　　刷／㈱須田製版
　　〒070-8045 旭川市忠和5条8丁目3-1 ☎0166-62-2266

飼育動物数

2016年2月末現在

●哺乳類	46種	269点
●鳥　類	64種	354点
●は虫類	5種	17点
●合　計	115種	640点